



Stingray Bass

¥200,000

エレクトリックベースのすべてを備え、多種多様なサウンドをつくり出す Stingray Bass。8個のマグネットを使ったハムバッカーは太く締りのある重低音が特長。

BODY:

ホワイトアッシュ・ボディ
MUSIC MAN オリジナルカッタウェイデザイン
ラミネイテッド・ピックガード
2ストラップボタン
ハイグロス仕上げ
メタル・ハードウェア

NECK:

ディタッチャブル・メイプルネック
ドット・ポジション
アジャスタブル・トラスロッド内蔵
ハード・フェノリック・ナット
シャーラー MUSIC MAN 糸巻
21フレット

BRIDGE:

ステンレス・スチールブリッジ
アジャスタブルミュート各4

PICK UP:

8マグネットスペシャルデザイン
ハムバッキングピックアップ
マスター・ボリュームコントロール
トレブル・ボリュームコントロール
ベース・ボリュームコントロール
プリアンプ内蔵

プリアンプの特長: ボディ裏のバッテリースペースにバッテリーを入れ、ローノイズコードを使用すると①高音域での損失を防ぐ②ボリュームを絞ること、セッティングを変えたりした際のトーン変化を防ぐ③出力レベルが増加し、より良いサウンドが得られる。

FINISH:

サンバースト仕上げ
ナチュラル仕上げ
ブラック仕上げ
ウォルナット仕上げ
ホワイト仕上げ

CASE:

ハードケース OLD2000 ¥20,000
ハードケース USA3000 ¥30,000

寸法:

1145(L)×356(W)×41(D)mm



サンバースト仕上げ



ナチュラル仕上げ



ブラック仕上げ



ホワイト仕上げ



ウォルナット仕上げ

写真はサンバースト仕上げ

今からおよそ10年前、軽音楽分野に初めてトランジスターを採用したアンプが登場しました。以来あちこちのステージで使われ、その数はますます増えています。

しかし、いざギター用、ベース用のアンプを選ぶとなるとトランジスターアンプは敬遠され、逆に真空管を使ったチューブアンプに人気が集中しているというのが現状です。

それは高い供給電圧と低い電流消費によるチューブアンプ独特の電源回路がピーク時のヒズミをやわらげ消化する特長があるからなのです。

それは高い供給電圧と低い電流消費によるチューブアンプ独特の電源回路がピーク時のヒズミを再生してしまいます。しかしトランジスターおよびICは物理的に小さく場所をとらないことや、故障が非常に少ないところから、レコーディング用マシンやミキシングコンソール、テープデッキ等あらゆる方面で使用され、モダンミュージックに重要な役割を果たしているのです。

MUSIC MANアンプは、トランジスターおよびICの長所をプリアンプ部分すべてに採用し、チューブアンプの特性をパワーアンプ部分に取り入れ、チューブとトランジスターのそれぞれの良さをフルに活用できるように設計されています。

MUSIC MANアンプの特長

■ICを利用したプリアンプ部ではコンピュータータイプのオペレーションアンプをトーンコントロール回路に採用しています。

■高いエネルギー、超高圧の真空管パワーは6L6タイプのものに比べて50%もアップしたウルトラパワーです。

■パワーリダクションスイッチ(出力減少スイッチ)を使いパワーチューブをドライブさせると、普通のアンプではなかなか出せない独特の心地良いディストーションが得られ、長いサステインも楽しめます。またボイスコイルの電流を下げ、スピーカーの寿命を守る設計になっています。

■ニューデザインのリバーブサーキットは、低い音量から中位の音量までドライブでき、しかも味わい深いリバーブが得られます。■独特のトレモロ回路はかかりが深く、ロータリースピーカーのドップラー効果にも似て聞こえます。

■MUSIC MANには65ワットシリーズと100、130ワットシリーズがあります。

